

(株)栄住産業 先代の意思を継ぎ 地域工務店支援を

宇都和光氏代表取締役就任インタビュー

(株)栄住産業は全国に23営業所を構える金属防水メーカーで、加工から施工まで一括責任施工にて工事を請け負ってきた。その施工棟数は累計で50万棟に迫る。このほど、(株)栄住産業(福岡市)の代表取締役「宇都和光氏が就任し、創業者である宇都正行氏は顧問に就任した。宇都代表は「工務店への支援が経営のテーマ」と語るなど、先代の意思を継ぐ方針を示した一方で「無駄なところは省直していく」として、今後組織の代謝を高める姿勢も見せた。

代表取締役社長就任のお話を受けた時の抱き持ちをお答え下さい。

宇都和光代表(以下、宇都代表)：創業した昭和51年2月から続く(株)栄住産業を引き継ぐにあたっては、会社の運営をより永く続けるべく、今までの経験が重宝と感謝しています。今までは取締役として業務を担当して参りましたが、今後は決定権を持つことで配分を振るう責務を果さなければなりません。身の引き締まる思いです。

今後の経営方針についてどのように考えておられますか？

宇都代表：災害に強い家を提供していく上で「レジリエンス」をより強く訴求していきたくと考えています。弊社は垂直避難のための

屋上空間を提供する一環として、金属防水工法「スカイプロムナード」や屋上庭園など、他社にはない商品を開発してきました。現在の状況としては都市部の地価が上昇しており、特に福岡県においてその傾向が見られます。住宅を建築する一戸あたりの土地が狭小地化していき、連棟、屋上を造ることで庭が持てる弊社の商品はニーズに合致していると考えます。

プライベート空間の需要が高まるコロナ禍において御社の屋上庭園は強みとなりますか？

宇都代表：そうですね。弊社のホームページへの問い合わせの数を見ても、一般の方からの問い合わせが年々増えています。屋上に

プライベート空間を持つというニーズはこれからも増えていくと予測しています。また、工務店様側からしても差別化のできる住宅の二役を買っていただいています。

就任一周年となる2021年度において特に意識していることはありますか？

宇都代表：今年度は設定した予算や売上および利益を達成することにより、この先の経営における好循環へとつなげていきたいと考えています。また先代から引き継ぎ、工務店様の支援も行っていきます。弊社ではお取引のある工務店様に受注のお手伝いとして「4Dバーチャル展示場」を格安で提供しておりますが、これは図面に合わせた住宅展示場をバーチャル空間上に再現するサービスでお施主様が求める住宅をよりイメージしやすくするものとなっています。IT化が進む時代の流れを考慮したのですが、この他にも積算や見積もりを自動化することで、省力化や働き方改革に貢献できると考えています。また、しばらく先の話になるとは思いますが、BIMの導入も業務上の組織が限りなく埋められるツールとして注目しています。

最後にひとこと、お願いします。

宇都代表：これは他の業界関係者の方々が感じていることと同じかとは思いますが、今の住宅関連業界に対しては少子高齢化やそれに伴う着工数量の減少に対して懸念を抱いています。このような中ですが、経営のやり方を急激に変えるつもりはありません。ここで急激な変化を求めれば社内には混乱を生むためです。長年宇都正行現顧問が経営してきた会社の代表が変わるわけですから、社員は不安を感じているかもしれません。そこで私は基本的に先代の姿勢を受け継ぎつつ、無駄は無くしていくというスタンスを持つことにしています。

◆ そんな同社だが、4月1日からはヤマエ久野(株)のグループ会社として新たなステージに進出した。前代表取締役の宇都正行顧問は両社がお互いのお客様にもっと貢献できるように戦略立てていく」と語る。宇都和光代表取締役は「お互いの強みを活かしていきたい」とその意気込みを語った。同社が見せる今後の活躍に期待したい。



代表取締役就任に就任した宇都和光氏。頭上に掲げられるのは先代の宇都正行現顧問が受賞した平成28年度の住生活月間功労表彰状における国文賞。今後においても地域工務店の活性化・地位向上への支援が期待される。